

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292000013		
法人名	社会福祉法人 愛仁会		
事業所名	グループホーム恵天堂		
所在地	千葉県旭市蛇園2532-9		
自己評価作成日	平成29年2月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成29年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム恵天堂は高台に位置し、眺望が良く自然豊かな心安らぐ環境にある。広い敷地内には恵天堂特別養護老人ホームや江畑医院、多くの介護保険事業所が併設され、多様なサービスの提供が可能である。介護職員の75%が介護福祉士取得者の為、経験が豊富である。認知症高齢者の介護や急変時等に柔軟に対応する事ができる。また、全員常勤職員で従事している。更に訪問看護ステーションとの連携にて、入居者様とご家族様にとって介護・医療ともに安心して生活ができる。毎月、防災避難訓練をグループホームで実施しており、災害時の対策をマニュアル化して強化に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム恵天堂」は、同敷地内に病院・特別養護老人ホーム・デイサービス・訪問看護ステーション等、各種介護保険サービス事業所があり、相互に連携を図り、入居者のニーズに合わせた柔軟で適切なサービス提供を行っている。隣接のデイサービスや特別養護老人ホームのレクリエーション・イベント等への参加が可能となっており、入居者の生活の活性化に繋がっている。医療面においては、同法人の病院や訪問看護ステーションとは、緊急時・急変時における協力体制が整備されていると共に、健康管理・相談等を実施しており、入居者・家族の医療面・健康面に関する不安解消に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員全員で作り上げた理念は、玄関とスタッフルームの見やすい場所に掲示し、理念の共有とサービスの向上に心がけている。	「尊厳ある暮らしの中で、ご利用者様の個性を生かし心身共に健やかに満足のある快適な生活を共に歩みます。」という理念を掲げ、施設内に掲示していると共に、研修や会議等で理念の周知徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	旭市七夕祭、敬老大会等の地域行事への参加。地元自治会の夏祭りには、事業所全体で参加。 学生ボランティアや体験学習等でも地域住民との交流を深めている。	近隣住民とは外出時に挨拶を交わす等、交流関係が築かれている。施設主催の「納涼祭」には地域住民や家族を招待する等、外部との交流を推進している。また、中学生や高校生の体験学習・実習生・ボランティアの受け入れを行う等、世代間交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの慰問時には短時間ではあるが、身体拘束、介護保険、認知症等について勉強会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では市の介護保険担当者や役員 ご家族様の参加により事業報告、現況報告、意見交換を実施している。（議事録有）	地域包括支援センター職員・民生委員・議員・地域住民・入居者家族・職員等を構成員として、年3回、運営推進会議を開催している。会議では事業報告や施設活動の報告を行い、施設の理解促進に努めている。会議を家族からの意見収集の機会とし、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	旭市高齢者福祉課主催の地域ケア会議やグループホーム連絡会に参加。入居者待機者名簿を毎月1回、市の担当者に提出している。	市に対して、日常の業務全般の報告・連絡・相談を行っており、連携を図っている。また、運営推進会議時に、市と意見・情報交換を行い、地域の現状に即したサービスの提供や課題解決に向け、協働体制が構築されている。	

【千葉県】グループホーム恵天堂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修へ積極的に参加。身体拘束廃止委員会の設置。玄関前は車両が通過するため安全を第一に考え、施錠しているが入居者様の状況によっては開錠していきたい。	身体拘束排除における施設方針・マニュアルの整備及び研修を実施しており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。法人にて委員会を設置しており、事例検討や点検等が行われており、結果を全職員に周知しており、身体拘束排除に向けた認識の統一を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝夕の引き継ぎ時、虐待等について職員間で確認をしている。千葉県高齢者権利擁護、身体拘束廃止研修を5名が終了している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は日本社会福祉協議会を通じて、通帳などの財産管理をしていた。今後も入居者様、ご家族様と話し合い、活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居前に、ご家族様やご本人様に直接面接し説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事への家族参加。面会等を通じて、できるだけ意見交換の機会を作っている。各居室担当の配置、苦情相談窓口の設置。	家族の面会時や電話連絡時に家族の意見・要望を直接確認している。また、運営推進会議時を活用し、家族の意見・要望の収集に努めている。他に、日々の様子や行事の様子を記載した手紙を送付しており、家族との信頼関係構築に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケースカンファレンス会議や毎日の引き継ぎ後に職員は意見や提案をする時間がある。管理者は理事長会議や主任者会議に出席し意見交換をしている。	定期的に会議を開催しており、職員の意見・提案を確認する機会を設けている。管理者が定期的に法人の会議に出席しており、会議内容の経過や結果の報告書を職員間で回覧する等、改善内容の透明化が図られている。	

【千葉県】グループホーム恵天堂

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望を取り入れ、働きやすい環境づくりに努めている。福利厚生として法人全体での納涼会や忘年会、職員旅行等があり、リフレッシュできるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修への参加を積極的に行っている。研修内容の共有、資格取得の推進。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会や千葉県高齢者福祉施設協会主催の研修等に参加している。海匠地区に於ける認知症勉強会への参加を通じて近隣のグループホームとの交流もある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が傾聴を心がけ、入居者様が安心できるよう情報を共有し、統一したケアを実践し信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時、相談受付表をもとに聞き取りし、不安や要望を表に出しやすくしている。契約時には契約書、重要事項説明書の十分な説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設で特養、デイ、在宅、訪問看護があり、多様なサービスの提供が可能である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のこれまでの生活習慣等から快適な居室づくりを共に行い、個々に合った役割や手伝いをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日々の生活状況を月に1回担当職員がお便りを送付し、ご家族様との絆を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊、電話等いつでもできるよう対応している。ご家族様の同意を得て入居者様の馴染みの場所へ外出することもあり、柔軟に対応できている。	希望に応じて、家族・親戚・友人等の来訪は自由となっている。また、習慣・生活暦・趣味等の把握にも努め、馴染みの生活継続に配慮している。地域の商店への買物や馴染みの場所へ立ち寄る等、入居者の希望に添った柔軟な支援に努めている。地域行事への参加・隣接のデイサービスや特別養護老人ホームへの行き来を盛んに行っており、馴染みの人との交流に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手作りのカルタやカレンダー制作等を楽しみながら交流を深められるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等になった場合には、面会に行く等しご家族様と連絡を取り合い関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各居室担当者主催にて定期的なケースカンファレンスを行い、職員全員が情報を共有し統一したサービスが提供できるよう記録したケースファイルは見やすい場所に置いている。	契約時に本人や家族から意向・生活暦・身体状況を確認している。必要に応じて医師の意見書や他の介護サービス事業所からの情報を受け、より詳細な情報の把握に努めている。家族との話し合い・生活状況の記録を活用し、より新しい情報の収集に努めていると共に、会議や申し送りにて全職員にて周知を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活記録に家族構成や連絡先、病歴、ADL身体状況、IADLを記録し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、生活記録、朝夕の勤務交替時に情報の共有ができるよう徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスを行いケアプランへ反映させている。定期以外にも状況の変化に応じてカンファレンスを行いケアプランの変更をしている。	本人・家族の意向や記録を基に、会議にて意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。生活状況・意向等を確認しながら、入居者主体の現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。定期的に目標達成状況の確認を行っており、必要に応じて介護計画の見直しを行う等、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細やかな生活の様子や言動、体調の変化を時間単位で詳細に記録し職員間で共有している変化がある場合にはケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している事業所があるので、それぞれの事業所と職員の協力体制が整い柔軟な対応ができています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御大師様、祇園祭、彼岸供養等の行事に参加し、季節感を満喫し、精神的な豊かさを楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診継続。緊急時には、ご家族様の承諾のもと協力医に受診できるようになっている。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、協力病院の往診が実施されており、適切な受診支援がなされている。また、協力病院との連携を図る等、緊急時・急変時の協力体制が構築されている。訪問看護を実施しており、健康管理・相談等を行っており、入居者・家族の医療面・健康面に関する不安解消に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連絡を密にし、受診介助等を通じて医師との連携がとれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後も安心してホームで過ごせるような体制を作る為に主治医や医療関係者と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後にご家族様への看取り指針の説明。重度化した場合は、主治医がご家族様に意向の確認をした上で急変時にも対応できる体制が整っている。	重度化・終末期においては法人の方針・マニュアル・同意書を作成し、家族への説明を行っている。重度化した場合には、入居者・家族の意向を確認すると共に、協力病院の医師や看護師等と話し合いを行い、入居者・家族の意向に出来る限り沿えるよう努めている。また、必要に応じて医療機関や他の介護サービスの切り替えが円滑に行えるよう協力体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが作成されており、職員間で常に応急手当て等を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月15日と日程を決め、防災避難訓練を実施。当法人全体の防災訓練にも参加している。火災報知器、スプリンクラー及び自動火災通報装置の設置。	非常時・災害時におけるマニュアルの整備や研修を行い、災害時・非常時・緊急時に備えている。消火器・自動通報器・スプリンクラー等の消火機器を設置すると共に、毎月、併設の特別養護老人ホーム等と合同で消防訓練を実施している。併設施設とは的確な避難方法・対応方法の確認や備蓄品の見直しを行う等、連携強化を図っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室、洗面、トイレ付の居室で鍵がついている為ひとりの時間を大切にできる。入浴時にはシャンプーや石鹸など好みの香りのものを準備し、十分な時間を取っている。	プライバシー保護・個人情報保護に関するマニュアルを整備している。研修や会議にて個人の尊厳を基礎とした接遇を指導しており、全職員は会話や介助方法等に細心の注意を払い、入居者のプライバシーに配慮している。また、個人記録の保管場所にも配慮し、個人情報の保護徹底にも努めている。	

【千葉県】グループホーム恵天堂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定できるよう促し、各居室担当が希望を聞くなどして表しやすい状況をつくる努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れの中で、天候や気分、体調によりひとりひとりに合った快適で穏やかな時間が過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室やホーム内でカラーやカット、ネイルや化粧をしたり、衣類や雑貨を購入し身だしなみやおしゃれを楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	桜餅など季節感のあるおやつと一緒に手作りする等、個々の力を活かしながら手伝ってもらっている。好みの食べ物、飲み物を希望に応じて提供し、満足のいく食事に努めている。	献立作成や調理は併設の特別養護老人ホームが行っており、盛り付けや片付け等は入居者と職員が共同で行っている。また、定期的に、外食・行事食・手作りおやつ等の食事提供も行っており、食事に対する楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録に詳細に食事、水分量の記録をしている。残存歯や嚥下状態によっては食べ物の形状、固さ調理方法等工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回毎食後の口腔ケア、義歯の装着者は夜間ポリドント洗浄を行っている。イソジンでうがいをし病気予防。状態によっては歯科受診への対応も行われている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録から排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。布パンツ、パット、リハビリパンツを入居者様に合わせて行っている。	排泄チェックリストを活用しており、一人ひとりの排泄パターンや状況を把握し、見守り・声掛け・トイレ誘導等の工夫を行う等、個別の排泄支援に取り組んでいる。また、紙パンツやパット使用方法の根拠を明確にし、本人本位で検討を行う等、トイレでの排泄に取り組んでいる。	

【千葉県】グループホーム恵天堂

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調や嗜好に合わせたおやつ、水分を提供。ラジオ体操、散歩等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	朝のバイタルチェック等を考慮して体調に合わせた対応を行っている。入浴剤を入れたり、菖蒲湯やゆず湯など季節を楽しめるような支援をしている。	入浴日を定めているが、回数・時間等は選択可能となっていると共に、体調により看護師と相談を行い、清拭や部分浴に変更する等、柔軟に対応している。身体能力に応じて、併設の特別養護老人ホームの特殊浴槽の使用も可能となっており、入居者の身体機能に合わせた適切な入浴支援が行われている。その他にも、月1回体重測定を実施しており、健康状態の確認に活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には、布団干しやリネン交換を行い安眠できる環境づくりを心がけている。ソファや畳を設置して居室以外でも休息できるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人に処方された薬の説明書が生活記録にファイルされており、職員全員が把握できるように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様が持参してくれた野菜を漬物にするなど経験と知識を活かし、張り合いのある日常を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホテルのランチバイキングなど普段は行けないような場所へも定期的に企画し外出できる機会を多く設けている。また、希望により個別に行きたい場所へも行けるよう支援している。	入居者の希望や体調に応じて、散歩・買物・ドライブ等の外出支援が日頃から行われている。隣接のデイサービスや特別養護老人ホームのイベントへの参加が可能となっており、入居者の生活活性化に繋がっている。定期的に外出行事を企画し、行先等に工夫を凝らしており、入居者や職員の楽しみとなっている。	

【千葉県】グループホーム恵天堂

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談の上、買い物に行くなど入居者様の希望に合わせて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてスタッフルーム内の電話を使用したり、手紙や宅急便なども利用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内に日めくりカレンダーや季節感のある装飾を施し、居室やトイレ、浴室等の場所が混乱しないようにネームプレートや場所の名称を書いた装飾をしている。温度、湿度計、加湿器の設置。	施設内はバリアフリー環境が整っており、明るく開放的な造りとなっている。共有スペースにはソファ・テレビが設置されており、入居者が思い思いにくつろげるよう配慮している。今回はウッドデッキ改装中で、完成が待たれる。加湿器を設置しており、乾燥による感染予防対策も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に思い思いの時間が過ごす事ができるようフローには、ソファや畳、廊下には長椅子を設置し入居者様同士のコミュニケーションが取りやすい環境づくりをしている。新聞や雑誌の提供。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、馴染みの家具を自由に配置できるようになっている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込むことが可能となっており、入居者が居心地良く生活できるよう配慮している。希望に応じて絨毯・布団・ポータブルトイレ等を使用することが可能で、入居者の生活暦に合せた居室作りがなされている。各部屋に洗面台と収納スペースが設置されており、利便性に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや転倒防止のバーを設置し、室内でシルバーカーや杖が安全に使用できるバリアフリー設計、廊下は車椅子が走行できるゆとりのある広さである。		